

道徳科学習指導案

指導者 T 1
 T 2

1 日 時 令和6年5月30日（木）5校時

2 学 年 第6学年（11名）

3 主題名 「仕事へのほこり」〔C勤労、公共の精神〕

4 ねらい

四十度近い気温の中、防護服を着て仕事を頑張っている父の姿を見る私の気持ちを考えることを通して、仕事には、大変さや辛さとともに社会や他者への貢献、自分にとっての使命感ややりがいがあることに気づき、その意義を理解し、公共のために役立とうとする心情を育てる。

5 教材名 「ウイルスとの戦いー父にエールをー」
 （「小学道徳 生きる力6」日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目〔C勤労、公共の精神〕「働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること」に基づくものである。これは、第1学年及び第2学年の「働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。」、第3学年及び第4学年の「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。」からつながるものである。

高学年になると、仲の良い仲間と一緒にする仕事には意欲的に取り組むが、共同作業や集団での仕事などを嫌う傾向がある。そのため、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して、汗を流すことの尊さや満足感、仕事を成し遂げた際の喜びや手応えなど、働く意義や社会に奉仕する喜びを児童一人一人に体得させ、進んで実践しようとする意欲や態度を養うことが大切である。また、勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えさせることが求められる。

また、人間として生きていくには、仕事に誇りと喜びを見出だし、将来や社会に対する夢と希望、そして生きがいをもって仕事に取り組めることが大切である。働くことは、単に自分が生活していくためだけでなく、自分に課された社会的責任を果たすという意味においても重視する必要がある。これらのことを自覚し伸ばしていくためにこの主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材の主人公「私」は、父が母に対し「何かあったときは、子どもたちのことをたの

む。」と話しているのを偶然聞いてしまう。大切な父があんなにもみんなのために頑張っているのに、町の人からとやかく言われるのは腹立たしいという「私」のいらだちに共感させる。そして、それでもなお、働き続ける父の姿を見て、父への尊敬の念と応援する気持ちを強くする「私」の思いを捉えさせる。また、父の思いを考えさせることで、私の仕事に対する思いを深めさせる。父の仕事に対する「私」の思いを考えることを通して、仕事は自分のためだけでなく、社会生活を支えるものであることを理解し、公共のために役立とうとする心情を養うことができる教材である。

指導に当たっては、児童が対話を通して考えを深めていけるよう、次の4点に留意しながら指導を行う。

- ① 展開前段では、「『私』はどんな思いから「お父さんも患者さんを診察しないようにすればいいのに」と言ったのでしょうか。」と問い、大切な父があんなにも頑張っているのに、町の人からとやかく言われるのは腹立たしいという「私」のいらだちに共感させる。
- ② 中心発問では、「防護服を着て頑張っている父の姿を見ながら、「私」は父のどんな思いに気付いたのだろう。」と問う。父の姿を見て、父への尊敬の念と応援する気持ちを強くする「私」の思いを捉えさせる。その後、ペアで意見交流を行う。教師は机間指導を行い、ペアでの話し合いの支援を行ったり、全体交流に向け児童の考えや発言を把握したりする。
- ③ 次に、「お父さんではなくても、他の人がやってくれるのではないですか。」と問い、父の思いを考えることで、働くことの意義について考えを深めさせる。
- ④ 終末には、導入時の課題「働くことにはどんな価値があるだろう。」を再度提示し、授業を通して考えたことを一人一人道徳ノートにまとめ、振り返らせる。授業の前後での考え方の変化を取り上げる。

7 準備物 ・教科書の挿絵、短冊、クロームブック

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	指導形態		○留意点 ●学習評価 ☆授業評価
			T 1	T 2	
導入 (3分)	1 事前アンケートの結果を示して、課題を設定する。	○「働くとはどういうことだと思いますか。」 ・大変なこと ・みんなのために仕事をする こと ・人のために動いて喜んで もらうこと。 ・自分や家族のためにお金 を稼ぐこと。	発問	板書	○働くことのアンケート結果を提示し、もっている思いを共有し、めあてに繋げさせる。
		働くことにはどんな価値があるだろう。			

2 教材「ウイルスとの戦い
一父にエール
を一」を読んで
考え、話し
合う。

○「私」はどんな思いから「お父さんも風邪の患者さんを診察しないようにすればいいのに」と言ったのでしょうか。

- ・お父さんが感染しないか心配だ。
- ・一生懸命患者さんのために働いているお父さんなのにかわいそう。
- ・医師として患者さんのために働いているお父さんはすごいな。

【中心発問】

防護服を着て頑張っている父の姿を見ながら、「私」は父のどんな思いに気付いたのだろう。

- ・早く感染症が終わってほしい。
- ・父は、少しでもいいから、町の人の役に立ちたいと思っている。
- ・自分だけでも診療を続けないと、困る人がいる。
- ・みんなを助けたい。
- ・地域や町の人々の安全のために頑張っているんだな。
- ・お父さんも頑張っているから、私も何かできることを見つけたい。

【考えを深める発問】

○父は、どんな思いで診察を
続けているのだろう。

- ・自分がやらないと感染が広がるかもしれない。
- ・人任せではいけない。

問發

板書

○大切な父があんなにも頑張っているのに、町の人からとやかく言われるのは腹立たしいという「私」のいらだちに共感させる。

問發

板書

机間指導

机間指導

○父の姿を見て、父への尊敬の念と応援する気持ちを強くする「私」の思いを捉えさせる。

○ペアで考えを交流させる。

○「私」の思いが最初よりも強くなっていることに気づかせる。

問發

板書

机間指導

机間指導

○父の思いを考
えることで、働くこ
との意義につい
て考えを深めさ
せる。

	3 自分の生活を振り返る。	・お父さんがしないと誰もやらないかもしれない。 ○働くことにはどんな価値があるでしょう。 ・社会の人達が困らないため。 ・人間らしく幸せに生きていけたり、社会が幸せになったりする。 ・人は誰かに支えられており、一人では生きていけない。 ・難しさを克服した時に達成感がある。 ・やりがいや誇りにつながる。 ・自己実現ができる。 ○誰かのため、社会のためと考えて働いたことがありますか。	発問 机間指導	板書 机間指導	●働くことの意義について、社会、相手、自分の視点から考えている。 (道徳ノート) (発言) 【キーワード】 ・社会の役に立ちたい。 ・自分がしていることは、だれかのためになる。 ・ボランティアをしてみたい。
終末 (9分)	4 学習の振り返りをする。	○「働く価値」について今日の学習を振り返りましょう。 ・道徳ノートへの振り返り	発問 机間指導	机間指導	○授業前後の考えを比較させることで、自分の考えの深まりに気付かせる。 ○今日の学習で分かったこと、これからの生活に生かそうと思うことについて振り返らせる。 ☆自分や周りの人達のことを考えながら、働くことの意義について考えている。 (道徳ノート)

9 板書

働くとは

- ・お金をかせぐこと
- ・大変なこと
- ・みんなのために仕事をすること
- ・人のために働いて、喜んでもらうこと

○しん察しないほうにすればいいのに……
父は一生けん命がへっている。
父がかわいそう。
悪いかわさ → いや
腹が立つ。
○悪いかわさる。
○断られはうわは立たない。
○父がいやな気持ちになる。

働くことにはどんな価値があるだろう。

ウイルスとの戦いー父にエールをー

父の姿を見ながら「私」は父のどんな思いに気付いたのでしょう

- ・父はすごい
- ・みんなのために何かすることが大切
- ・人を助けよう
- ・あきらめなければ助けられる
- ・一人でも多く助けたい。
- ・自分より人つらくても

父の思い

- 人を助けられるなら
- プライド→自分がやめなければいけないため
- 地元の人のために
- 人々を助けたい。
- ウイルスを広まらせたくない！
- 助けよう！
- みんなが喜ぶ

人を助ける

- ・やりがい
- ・人の役に立つ
- ・人の喜びがうれし
- ・困っている人
- ・喜んでいる人
- ・たれかが喜ぶ
- ・自分も楽しい

やりがい

10 成果と課題（成果…○ 課題…●）

- 授業前にアンケートを取り、現状を把握することができた。また、展開後段で再度同じ発問をし、授業前と後の変容を読み取ることができた。
- 授業を通して児童に身に付けさせたい姿を事前にもっておいたことで、ねらいからぶれることなく進めることができた。
- ペア活動や交流の時間において、児童が自分の言葉で考えを伝えることができた。
- 振り返りの時間を十分に確保することができなかった。出させたい言葉にこだわってしまい、中心発問に多くの時間がかかってしまった。
- 児童のどの言葉で切り返すのかをさらに明確にしておく必要があった。
- 発言をする人、聞く人がそれぞれ相手意識をもって取り組む必要がある。

11 今後の「改善・充実」に向けて

- ・ねらいの明確化、発問の精選、時間配分の設定などを丁寧に行い、児童が考え、深めることのできる授業づくりをしていく。
- ・児童の思考が深まるように板書を工夫していく。